新施設長紹介

秋田認定こども園
園長　　三浦　司

子どもの命を全力で守る

私ども鉄道弘済会は、社会福祉事業を中心に多彩な事業を展開する公益財団法人です。収益事業で得た益金を公益事業に充当して活動しています。その公益事業の一環に保育事業があり、北は北海道から南は九州にわたって全国に２４の保育施設を擁しています。

その保育施設のひとつである秋田認定こども園（ひまわりこども園）に私が着任したのは昨年７月のことになります。それまで働いていた組織（会社）の仕事内容とは全くの勝手違いに右往左往しておりました。そんな中で子どもたちがくれる人なつこい笑顔と元気は心の支えとなっていた（今でもそうですが）と改めて思い返しているところです。この子どもたちの笑顔を決して絶やしてはいけないと誓うようにつぶやいたのもそんな中であったと記憶しています。その後、１１月に入り先任から園長職を引き継ぎましたが、子どもたちには楽しそうだと思ったことや、やりたいと思ったことをどんどんやってみるように伝えています。その先のもっともっと楽しいことにつながっていくということに気づいて欲しいからです。だだ、頑張らなければ完成しないものもあります。その時は歯を食いしばって頑張ってみることも併せて伝えます。やっぱりその先の楽しいことにつながっていくことに気づいて欲しいからです。

昨今、大人のみならず子どもの命や希望をも奪うような悲惨な出来事が世界中で起きています。心を引き裂かれるような思いをしていましたが、大晦日の紅白歌合戦で、ご存じ桑田佳祐さんが中心となったかつて大活躍をしていたおじさんたちのバンドが歌（時代遅れのRock’n’Roll Band）の中で伝えた言葉が大きく自分の心の中に入り込み、このフレーズに心が熱くなります。“…子どもの命を全力で大人が守ること それが自由という名の誇りさ…”少なからず閉塞感の否めない今の世の中において、右も左もままならない子どもたちの「命を守ること」や「歩む道を示すこと」が我々大人のなすべきことであり、自由を誇り語るために大事なことなんだとのメッセージです。子どもたちが安心して未来へ向けて豊かな成長を遂げられるよう全ての大人が心を合わせていければと願った瞬間であり、また、そうありたいと思いました。「君たちの命は先生たちがちゃんと守るから思う存分にやりたことをやれ」そんな保育施設でありたいとも思っています。

これからも皆さま方からご指導を賜りたくお願い申し上げます。

新施設長紹介

こばと保育園
園長　今野由貴子

『こばと保育園』は昭和４３年、結婚・出産で退職を強いられた働く女性の手でつくられた『こばと共同保育園』がはじまりとなり、昭和５２年に『社会福祉法人こばと保育園』として認可。６０名定員（現在１１０人定員）で現在の地、広面に作られた保育園です。当時は子どもを預けて働くことが世間から認められないような時代、安心して子どもを預けて働くことができるよういち早く０歳児の受入れを開始し乳幼児保育を築き上げてきました。この春、長い間こばと保育園と関わりこばとの礎を築き上げてきた安宅園長が退職し、私が園長となりました。日々の業務が目まぐるしく、一日一日があっという間に過ぎています。不安もありますが、今後、皆さまにご指導していただきながらひとつひとつ進んでいきたいと思います。

私自身、短大を卒業しすぐ就職したのがこの『こばと保育園』でした。
当時のこばとを思い起こすと本当に熱心な先生方が集まり、常によりよい保育を目指し「これでいいのか！？」「何でこれがいいのか！？」と、いつも子どもを第一に考え、熱い気持ちで保育を語り合う、そんな職員集団で作られた保育園でした。「若いうちに勉強しなさいよ～」と言われ、自分もがむしゃらに向かう時もありながら、その中で一緒に研修を受けたり、会議で意見を交わしたり、時には熱い先輩保育士の背中を見て自分に取り入れる。そうしながら熱き先輩方の元 10 年は勉強したでしょうか。まさしく今それが私の土台になっているのだと改めて感じています。こばとを作り上げた先輩方は偉大です。

こばと保育園の子どもたち「こばとっこ」は園庭でおもいっきりどろんこまみれで遊びます。近くに土手や神社、公園もありたくさんの散歩コースを歩いて四季を感じたり地域の人とふれあったりしています。
とにかくおもいっきり遊ぶ！遊ぶことで生きる根っこを育てています。いつの時代も「あ～楽しかった！また明日も遊ぼうね！」の声が響き渡るこばと保育園でありたいです。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

新施設長紹介

こひつじ保育園
園長　福田　恵嗣

４月から園長に就任しました福田恵嗣と申します。
これまで副園長として、しばらく前園長の下で務めさせていただき、運営や保育に関する様々なノウハウを教えて頂きました。しかし今回一人前になって園長就任したわけではありません。ですから実際数カ月務めてみて気付くことがたくさん出てきました。意外にも見えてなかった職務（細かく配慮すること）があり、それが思ったよりも重圧で、気持ちがつぶれそうになっています。これまで前園長が築いてきた保育運営に、自分が長となって、泥を塗ってしまう結果になってしまったらどうしようか、長が変わったことで保育の質を落としてしまうのではないかというプレッシャーが掛かっています。そうならない為に、あぁしなければならない、こうしなければならないと、落ち度がないように一つひとつ物事を整理していますが、日々余裕がなく焦りを感じています。
しかし『一年目だし、完全にできる事なんてないのだから、大丈夫だ（一歩ずつ)』と何気なくであったかもしれませんが、この一言が、今の私には優しくて暖かく何度も何度も落ち込んでいる時に救ってくれています。足らない自分であることは重々分かっています。
今は職員をはじめ協力してくれている方々がいる事に感謝しています。園児一人ひとりの最善の利益を保障するために、自己研鑽を怠らず早く一人前以上になり職員をも支えて行けるようになって、全責務を果たしてまいりたいと思います。

改めて秋田市保育協議会の一員として、会議にただ参加するだけでなく、保育業務並びに保育者の資質向上および児童福祉の充実を図ることを真摯に捉え、各園の施設長様と協力しながら目的と課題に向き合っていきたいと思います。何を質問して良いか躊躇してしまうこともありますが、無知者として自覚し積極的に臨む所存です。至らない点ばかりで失礼するかもしれません。稚拙な挨拶文で申し訳ありませんが、ご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

新施設長紹介

かんば認定こども園
園長　菅原雅文

日頃は何かとご愛顧をいただき、誠にありがとうございます。

今年度、かんば認定こども園の園長となりました菅原雅文と申します。１４年前、かんば保育園に事務員として就職しました。保育業界を全く知らない私でしたが、若者塾や部会などで御一緒になった先生方から、保育や経営などについて教えていただきました。様々なことを教えて頂く中で、先生方の「こどもに対する思い」がとても深く、いつも心が揺さぶられました。私も素敵な先生になれるよう精進したいと思います。

長年皆様には、前園長の菅原しんが大変お世話になりました。菅原しんは、園長を退任しましたが、当法人の理事長を現任し学童教室の職員として、施設に携わっています。

当園は、令和５年４月１日に「かんば保育園」から、保育所型認定こども園「かんば認定こども園」になりました。サポート事業では、秋田県幼保推進課や秋田市子ども育成課に保育をみてもらい助言をいただけたことは、保育を見直すよい経験となりました。

認定こども園への移行にあたり、１号認定の利用や保育料の徴収など事務手続きが分からないことが多々ありました。その際同じ市内の認定こども園さんが、お忙しい中時間を割いて教えていただき、とても感謝しております。おかげ様で、無事認定こども園へ移行できました。

園長になり感じたことは、「決断することの難しさ」です。難しいと感じる点として、①責任の重さ、②スピード、③量の３点です。職員と相談して協力しながら事業を行っていますが、最終的には園長が決定し園全体が動くことを実感しました。私は頭の回転が悪いです。何かを決めるのにも時間がかかり色んな方に迷惑をかけています。そんな私ですが、いつも職員に助けられ、様々な問題を乗り越えてくることができました。職員を信頼している一方で、頼ってばかりではいけないと思っています。かんば認定こども園がより良い施設となるよう努力してまいりますので、今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

新施設長紹介

ごしょの保育園
園長　千葉　学

今年度４月からごしょの保育園にお世話になっております。広い遊歩道、築山や遊具が整備された大きな街区公園、交流を重ねている御所野学院中学校・高等学校、そしてそれらに囲まれるように立つ可愛い園舎。とても素晴らしい環境で、子どもたちと毎日楽しく生活できそうだなあ、というのが第一印象でした。しかし、園での生活を始めると、何もかもが初めて体験することばかりで、子どもたちと楽しむどころか職員の皆さんの足手まといになりっぱなしのまま現在に至っております。

その中でも、最初に戸惑ったのが「いってらっしゃい。」「おかえりなさい。」という毎日職員が保護者の方々と交わす挨拶でした。おそらくどの保育園でも行われているのでしょうが、小学校の教員生活が長かった私にとっては、「おはようございます。」「こんにちは。」が当たり前でしたので、新鮮さを感じつつも違和感満載でした。しかし、毎日その挨拶を耳にするうちに「いってらっしゃい。」には、『大事なお子さんを、大切にお預かりしますから、安心してお仕事に行ってきてください。』、「おかえりなさい。」には、『お仕事お疲れさまでした。お預かりしていた大事なお子さんを無事にお返ししますね。』という思いが込められているのだなあ、と考えるようになり、その誠実で相手思いの温かい対応に心が和むようになりました。おそらく保護者の方々も、その挨拶を受けるたびに同じような思いをしているのではないでしょうか。

ごしょの保育園にお世話になってから、早いもので三か月余りが経ちましたが、驚きと発見であっという間に過ぎたように感じます。これから、お泊り保育、夏祭り、バス遠足、運動会、発表会など様々な行事が続きます。それらの行事からも多くの驚きや発見があると思うと、これからがますます楽しみです。

体中に初心者マークを貼り付けるようにして保育園に通っている私のあいさつは、いまだに「おはようございます。」「こんにちは。」です。いつの日か当たり前のように「いってらっしゃい。」「おかえりなさい。」と保護者の方々にあいさつができるようになると、ようやく初心者マークが外せるのかなと思っています。まだまだ未熟者です。皆さんこれからよろしくお願いいたします。

新施設長紹介

牛島ルンビニ園
園長　今　まち子

この４月から牛島ルンビニ園で勤務することになりました。日々忙しい中にも可愛い子ども達に癒されて過ごしている毎日です。
保育園がある牛島地区は、住みやすい住宅地で近隣の方達のつながりも深いように感じられます。園の周りには街区公園や城南中学校、児童センターも隣接しており、通学路になっている園前の道路は小中学生の元気ではつらつとした姿が微笑ましい光景です。

牛島ルンビニ園は、公立の牛島保育所から移行して、今年で 10 年目を迎えます。引き継がれている世代間交流事業は「昔っこ遊び」や「りんご狩り」の体験を通して世代を超えた交流が行われています。また、地域ボランティアの方からは、絵本読み聞かせや演奏会などを催して頂いています。地域の方々の未来ある子ども達への温かい思いと活動への熱心さには本当に頭が下がる思いです。これからも地域住民の皆様との交流を通して、人と人とのつながりを大切にし、子ども達へ伝わる活動を心がけていきたいと思います。

現在、不適切な保育が注目されておりますが、園としてまた一人一人の保育士が自分の保育を振り返り、子どもを尊重するという基本的な姿勢を意識して持つことが重要だと感じています。職員が相談し合える、保育を語り合える風通しの良い関係を築き、園全体のチームワーク力が高められるよう自分の役割も考えていきたいと思います。

新施設長紹介

かわぐち保育園
園長　佐藤美生子

紫陽花の花がピンクや紫など色鮮やかに咲き誇る季節となりました。今年度４月、熊谷前園長より引継ぎました、かわぐち保育園　佐藤美生子と申します。園長としての重責を非常に感じておりますが、日々研鑽し精進してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

子どもたちにとっても、保護者の方々にとっても人の温かさにたくさん触れ、感じながら過ごすことのできる場所としての保育園。保育士となってからずっと、子どもたちには人の温かさと愛されている想いにたくさん触れ、育ってほしい。そう願い、その想いで保育に取り組み続けてきました。その想いは今も変わりなく、自分自身もまた、自分の周りにあるその温かさと優しさに気づけ、感謝できる自分でありたいと思っています。子どもたちと保護者の方々そして、共に働く仲間を大切に、その支えとなれるよう、どんな時も初心を忘れず、“当たり前”を大切に、子どもたちに、保護者の方々に、職員に、そして地域に愛される園として職員と力を合わせ、かけがえのない温かな保育園づくりに取り組んでいきたいと思っています。

さて、今年は２歳児うさぎ組の子ども達もプランターに野菜“にんじん”の種を植え、その生長に触れ、楽しんでいるところです。プランターに小さい芽がたくさん出てきた時には、目をまん丸にして驚いたり喜んでいる姿はとても可愛らしく、キラキラした瞳がとても印象的でした。春が過ぎ、これからまた子どもたちの“はじめて（の驚きや喜びなどなど）”に出会える瞬間がたくさんあると思うと、楽しみでしかありません。そんな子ども達の小さな変化を見逃さず、子どもたちの心に色鮮やかな、色とりどりの大きな虹をかけ続けることが出来るように・・・子どもたちにとっての最善とは何かを自分自身、そして、職員に常に問いかけつつ、子どもたちの豊かな感性と人間関係、温かな心を育むために共に考え日々の保育につなげていきたいと思います。

新施設長紹介

第一ルンビニ園
園長　　佐々木　真理

３年ぶりに保育園に戻ることになり、４月３日緊張して出勤しましたが子ども達や職員に温かく迎えてもらい一安心しています。

この３年間皆様は新型コロナウイルスへの対応で日々忙しく、情報を収集や・保育園内での感染を防ぐ仕事に追われたことと思います。私は母子生活支援施設で同様の対応に追われていました。保育園とは違って生活の基盤をつくり自立していくまでの母子は、様々な問題を抱えていました。それでも子ども達は元気に保育園に登園し楽しく１日を過ごしてきます。「おかえり～」と声を変かけると「今日は〇〇して来たよ」と楽しかったことを話してくれて、保育園から離れてみると保護者の方々もこの子どもたちの笑顔に微笑み喜んでくださっているのではないかと感じています。

３年間の間に保育園に関わることが更新されているように、自身の能力・体力が更新されていればいいのですが、子ども達に癒されながらも自分に厳しく！と気合を入れている毎日です。

保護者が選んでくれて子どもさんをお預かりし、保護者との信頼関係を築くのは、SNS 等が利用される現在では以前より難しくなっていることを実感しています。園長としてやるべき課題も沢山あります。保育制度についても今一度理解を深めることに努力して皆様から様々な情報をいただきながら子ども達の笑顔のために頑張りたいと思います。

定員割れしている現状、入所児童の確保以前に働く保育士の確保にという課題が大きく前にありますが、現在働いていてくれる職員も子ども達同様に大切にし、それぞれが生き生きと元気に過ごせるように、自分自身もしっかり前を向いていけるように・・・

新施設長紹介

寺内保育所
所長　平野　敬子

この４月より、寺内保育所所長として勤務しております。
当保育所での勤務は、８年目となります。０歳児からの成長を見てきた子ども達や、気心の知れた保護者の方々、職員の中でスタートできたことが、どれほど恵まれた環境にいるかと実感し、感謝して勤務している毎日です。

寺内保育所は、昭和５０年４月に開設され今年で４８年を迎えます。住宅地に囲まれた環境にありますが、近くには草生津川が流れ子ども達の大好きな散歩コースの一つです。春は桜並木、秋はコスモスロードと四季折々の景色を楽しめ、友達や保育者、地域の方と一緒に楽しめるスポットです！

新型コロナウイルス感染症が５類へ移行し、保育所は以前の保育や行事に戻っていけるという嬉しさと期待から、笑顔や活気に溢れています。以前の形に戻る一つに、幼保小連携交流（泉中央学区）があります。今年度、寺内保育所は当番園となっており、１１月に３小学校、９幼保の先生方をお迎えし公開保育が予定されております。子ども達の元気な姿を参観していただき、幼児期と児童期の教育を円滑に接続し、連携して支えていきたいと思います。

新しい行事としては、７月に保育所園庭で、保護者の方が所属されている竿燈会の皆さんをお招きし、「ふれあい竿燈祭り」を開催いたします。「ぜひ子ども達に、秋田伝統の竿燈を体感してもらいたい」という保護者の方からのご提案から、実現のものとなりました。今から、皆で楽しみにしております！

寺内保育所の今年度の目標は、「好きな遊びを見つけて、十分楽しもう！」です。保育所での子育ては、子ども達にとって最も身近で大切な場所です。保育者は日々、「子ども達が楽しめる遊びは何かな？心地よく過ごせる環境ってどうだろう？」と試行錯誤し、子ども達と一緒に保育を楽しんでいます。子ども達や保護者の方々、職員一人一人の個性を大切にし、みんなが安心して過ごせる保育所でありたいと思います。

「寺内保育所に入所して良かった」「寺内保育所で勤務できて良かった」と思っていただけるように、精一杯努めていきたいと思います。
今後とも、よろしくお願いいたします。

新施設長紹介

新波保育所
所長　松田　理佳子

昨年度に初めて当保育所に着任し２年目となりました。この４月から新波保育所長を務めております。施設は緑豊かな田園と雄大な雄物川に囲まれた「大正寺地区」にあり、少し行くと大仙市や由利本荘市と隣接しています。隣に雄和南体育館があるので週末には体育館を利用する市民で賑わいますが、平日はいたって静かでのどかな雰囲気の小さな保育所です。

今年度の児童数は１０名と昨年度より半分近く減ってしまいました。それでも０歳児の赤ちゃんから年長児まで在籍しており、それなりに元気な泣き声や笑い声が響いて、生きるパワーがギュッと詰まった毎日です。地域に子どもがいることのしあわせをしみじみと感じております。

コロナ禍でしばらくお休みしていた地域の方々との交流も再開しました。救護施設「玉葉荘」さんへサツマイモの苗植えに行ったり、すぐそばの「新波神社」の例祭に見学に行ったりと、ひとつひとつの活動をとても楽しみにしている子どもたちです。
今年度の「保育の重点目標」は「いろいろな自己表現をしてみよう」です。地域の方々やご家族のみなさまと一緒に、子ども達が様々な体験や人々とのふれあいを重ねていけるように、職員みんなで話し合い、保育を楽しんでまいりたいと思います。

新施設長紹介

岩見山内保育所
所長　　岡部　亜希子

令和５年４月から、秋田市岩見三内保育所の所長として勤務しております。このたびの人事異動により、初めて当園に勤務することになりました。河辺地区で産まれ育った私にとって、岩見三内地域のことを少しは理解しているつもりでしたが、実際に勤務してみると知らないことがたくさんあって戸惑う一方、日々新しいことを知ることができ、楽しみも感じております。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、岩見三内地域には「へそ公園」というユニークな名前の公園があり、その名のとおり、当該地域は秋田県のヘソ＝中心地に所在しています。また、保育所の近くには岩見川が流れていて、♪きらめく　せせらぎ　緑うかべて～♪（旧河辺町のイメージソング「せせらぎの町へ」です。）と思わず口ずさんでしまうくらい、清らかな水の流れに心が惹かれます。そのような美しい自然の中で、子ども達は、四季折々の自然の移り変わりを肌で感じながら、すくすくと育っています。

さて、新型コロナウイルス感染症の法律上の位置付けが５類に移行され、少しずつ活動や行事がコロナ禍前に戻りつつあります。しかしながら、感染症自体が消滅したわけではなく、引き続き安全面や衛生面など、細心の注意を払い保育所運営を進めていくことが求められています。当然のことながら、必要な措置等を誰かが一人で考え実践することは困難で、組織全体が一丸となって取り組んでいかなければなりません。そのためには、職員一人一人が課題や展望を持ち、自身の力を発揮することが大切であり、そうした意識を育む環境の構築が、私の役目であると認識しています。

そこで、まずは、職員が自身の意見等を発しやすい風通しの良い職場環境を作っていきたいと思います。一朝一夕で成し得るものではありませんが、そうした取組の継続が子ども達にとって過ごしやすく、保護者が安心して預けられる保育所、そして職員も働きやすい職場へとつながっていくものと考えますので、精一杯努力してまいります。

今後ともご指導くださいますよう、よろしくお願いいたします。

新施設長紹介

川　添　保　育　所
所長　佐 藤　麗 子

令和５年４月より、所長として勤務しています。

当保育所は、四季折々の樹木や草花、昆虫と触れ合うことのできる緑豊かな自然に囲まれています。つい先日まで、玄関のつつじが美しく咲き乱れ、鮮やかなピンク色が子ども達や保護者の皆様を迎えていました。また、虫かごと図鑑を手に元気に園庭に遊びに出かける子ども達を見ていると、自然がもたらしてくれる豊かな恵みに感謝の気持ちが溢れます。

令和５年度の川添保育所は新入児７名を迎え、全園児３０名でスタートしました。一クラスの人数は少ないのですが、一人一人の好奇心やチャレンジ精神は人数以上。そして、そんな子ども達に負けないくらい、したいこと、やってみたいことがある保育士達。日々の保育の様子を伝えるドキュメンテーションからは、子どもの発見や試行錯誤の様子、保育士の思い等が伝わってきて、それを見ながら保護者の方々と話すのが私の密かな楽しみになっています。

先日、行事の開催方法について、職員間で何度も話し合いをしました。新型コロナウイルス感染症によりたくさんの制約を強いられた数年間ではありましたが、それまで当たり前にしてきたことを見直す中で、新たな気づきを得ることも出来ました。今しかない幼児期の我が子の姿を見たいと思う保護者の皆さんの想いに寄り添いつつ、主役である子どもにとって何が一番いいのかを選択していくことが、今年の課題だと思っています。

川添保育所の保育目標は「あたたかい目と手と心で一人一人を大切に育みます」です。見えていることだけでなく、見えていないことにも想像力を働かせ、子どもの思いや感性に寄り添うこと。このことを大切にしながら、「明日も会いたい人がいる保育所」になれるよう、職員一同、頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

新施設長紹介

河辺保育所
所長　利部　葉子

河辺の中心に建つオレンジ色の屋根の河辺保育所は、和田駅や河辺市民サービスセンターが近くにあり、地域に根ざした保育所です。現在は在籍児童数９９名、職員３７名で、平成２２年に設置されてから１３年目を迎えました。広々とした園舎や園庭では、子ども達がのびのびと過ごし、笑顔と歓声であふれています。園バスを利用して園外保育に出かけたり、夏は常設のプールで遊んだり、地域の方から借りている畑ではさつまいも等の野菜を栽培し、秋にさつまいも掘りをしたりと季節に応じた活動を楽しんでいます。地域に子ども達の元気を発信し、子ども達の存在が宝物となって、少子化問題の解消の一端を担うことにつながればと願っています。

今年度は、子ども同士の関わり、職員間の連携を大切にし、保護者や地域の方々とのつながりを深めるために保育所での取り組みを発信することを心がけていきたいと思っています。子ども達がのびのびと過ごすために、職員も個性を生かしながら様々な保育を展開し、お互いに刺激を受けながら、資質の向上を目指します。多様な職員の職種や経験年数、保育観に対応すべくスキルを身につけるため、まずは風通しのよい職場づくりを目指し、職員間の連携を深めながらすすめていきたいと思います。

今後の行事の取り組みについては、新型コロナウイルス感染症流行時のやり方と流行前のやり方を比較し、良いところは残しながら、改めて行事の取り組みについて考えていきたいと思います。

さまざまな組織との連携を深め、保護者の仕事と子育ての両立を支援すると共に、未来ある子ども達の健やかな成長を支えていきたいと思います。

新施設長紹介

雄和中央保育所
所長　　多可　真紀

令和５年４月より、雄和中央保育所長として勤務しております。
雄和中央保育所に異動してきて３年目になりました。それまで雄和地区での勤務経験はありませんでしたが、悠々と流れる雄物川や四季折々の雄大な自然に囲まれ、時にはリスやタヌキに遭遇したり、園庭にキジが遊びに来たりすることもあり、子ども達と共に雄和の自然を満喫して過ごしています。

春から夏にかけては、シロツメクサの迷路をかけ回り、夏から秋には虫を追いかけ、冬はそり滑りを存分に楽しんでいる子ども達。恵まれた自然環境の中で夢中になって遊び、自分の『好き』を見つけて発見や喜びを感じられるように、職員一人一人が環境づくりや環境整備、保育の工夫を重ねて子どもに寄り添い、子どもと一緒に喜んだり楽しんだりしながら日々の保育を大切にしていきたいと考え、取り組んでいます。

年々入所児童数が減少傾向にあり、家庭的な雰囲気の中で保育士が子ども一人一人とじっくり向き合える良さがある半面、同年齢の友達の人数が少ないために経験できないこともたくさんあると感じることが多くなりました。同じ地域の保育所との交流を積極的に行い、地域の小学校やサービスセンター、ご近所の方々とのやりとりを大切にして、子ども達をあたたかく見守ってくださっていることに感謝しながら、地域の中の保育所が担う役割をしっかりと考えていきたいと思います。

職員の気づきやチームワークの良さに助けられながらの毎日ですが、子どもが笑顔で過ごせることを第一に考え、保護者の皆様や職員みんなと共に子どもの育ちや成長を支え、見守り、応援していきたいと思っております。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。